

0272

第六十三師團  
第一百零八師團  
作戰記錄  
資料

1116

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

<http://www.jacar.go.jp>

備考

一本記録の事實の正確の期をト共其真相ヲ明ラカスル為  
忌憚チテ赤裸ニ且冗長ヲ顧ミズ努メテ詳細ニ記述セリ

二右ノ為各方面ニ對シ差レ障リノ記事 有害無益ノ記事 目的ニ合マ

ズ不要ノ記事等多クアリト思科ルモ此ノ中ヨリ 御役ニ主ツ資料ヲ

借レ得ハ幸甚トス

1117

目次

A 63D 作戰記録

一 北支ノ態勢ヨリ滿洲へ轉進狀況

1. 要約

2. 轉進準備

(1) 教養備ノ移讓

(2) 師團ノ編制改正

(3) 師團ノ教育訓練

(4) 滿洲へ轉進實施

二 滿洲轉進ヨリソノ聯參戰迄ノ狀況

1. 要約

2. 移駐後ノ配置

3. 作戰準備ノ狀況

(1) 師團ノ任務

頁

一 一 一 一 一 二 三 四 四 五 六 六

四、終戰ノ狀況	一八
三、ソノ聯參戰當時及爾後ノ狀況	一七
8. 關係滿洲國軍隊ノ狀況	一六
7. 關係軍部隊ノ狀況	一六
(四) 數量の觀察	一五
(一) 一般の觀察	九
6. 戦力	九
5. 編制裝備	九
4. 教育訓練	八
(一) 其ノ他	七
(十) 教育訓練	七
(二) 資材ノ整備	七
(一) 陣地構築	六
(四) 兵力部署	七

1. 態勢	一八
2. 戦力	一八
3. 武装解除ノ状況	一八
4. 爾後ノ推移	一九
「B」138D 作戰記録	一一
一、新設ヨリソノ聯參戰時ニ至ル状況	一一
1. 要約	一一
2. 新設準備	一一
3. 編成状況	一一
(イ) 人員	一一
(ロ) 裝備	一四
(ハ) 編成完結	一五
(ニ) 觀察	一五

三

八月九日、於之師團戦力及状況並に部隊配置 作戰準備度	二七
(イ) 師團、戦力	二七
(ロ) 師團、状況及部隊配置	二七
(ハ) 作戰準備、度	二八
二、ソ聯冬戦當時、状況	二九
1. 敵、状	二九
2. 師團、状況	三〇
3. 地方、状況	三〇
三、爾後、經過	三一
1. ソ聯参戦初期、状況	三一
2. 主力、撫順守備、状況	三二
四、終戦、状況	三二
1. 態、勢	三二
2. 戦、力	三三

3. 爾後ノ推移及武装解除ノ状況	三三
(イ) 停戦直後ノ状況	三三
(ロ) 現地應召者ノ召集解除	三四
(ハ) 武装解除ノ状況	三六
(ニ) 在撫順部隊ノ新屯集結、師團長出發	三七
(ホ) 撫順及新屯ニ於ケルソノ軍ノ対日軍態度	三八
(ヘ) 新屯ニ於ケル状況	三九
(ト) 新屯ヨリ奉天収容所ニ移轉	四〇
(チ) 奉天出發、ソノ領へ輸送	四〇
C. 其他	四三
一. 在留邦人ノ状況	四三
1. 要約	四三
2. 撫順方面	四三
五	四三

3. 奉天方面	四五
4. 通遼方面	四五
六、滿洲國政府ノ狀況	四六
三、滿洲國軍警ノ狀況	四六
四、滿鮮人ノ狀況	四七
1. 滿人ノ狀況	四七
2. 鮮人ノ狀況	四八
D. 觀察	
一、ノ軍ノ狀況	四九
1. 幹部以下ノ素質	四九
(1) 幹部ノ素質	四九
(2) 兵ノ素質	五〇
2. 兵器資材	五一

六



3. 機動力

4. 戦法其他

二、我方ノ教訓事項

1. ソノ軍謀報、謀略、地下潜行的工作、優秀ナリ

ヒテ餘リ

五二

2. ソノ軍實执行力ハ旺盛ニシテ其ノ計畫性組織性ニ乏シキ缺補

五三

3. ソノ軍ハ百事簡單大ザバニシテ能ク實功ヲ著ケリ

五五

4. ソノ軍ノ思想統一ハ克ク行ヒ、秘密ハ嚴守セリ

五六

三、其他參考事項

五七

1. ソノ聯ハ國民ニ對シテ對米戦争遂行ノ意識ハ即揚

狂奔シヤリ

五七

2. 終戦後ソノ聯ガ滿洲ヨリ奪取搬送セシ物資ノ莫大

五八

3. ソノ聯ハ今次戦争ニ於テ其ノ有ラン限リ力ヲ盡シタリ

五九

4. ソノ軍ノ信義國際公法ニ對スル觀念ハ皆無ナリ

五九

5. ソノ聯人ノ人種的差別感ハ殆ント之ヲ見ス

六〇

七

0281

目次  
終

1125

一、ソノ軍ノ状況  
D  
觀察

師團ハ対ソノ戦闘ヲ實施スルノ機會ナク停戦後其ノ進駐ニ  
始メテ之ニ接シタルモノナリ 以下當時見聞セル事項ニ基ク  
觀察ヲ記述セントス

尚後ニ至リ入ソノ後ノ印象ハ滿洲ニ於テモト異ルニナク之ヲ  
裏付ルニ多ク知レリ

一、幹部以下ノ素質

(1) 幹部ノ素質

直接面接セル將官、幕僚等上級幹部ノ素質ハ概不

可シク能力アルモノト感シタルニ下級幹部ノ素質ハ甚ク

シテ不良ニシテ軍風紀嚴肅ナク識得技能應変ノ才等皆低劣ナリ

註「大戦前駐ソ大使館附武官ノ所見ニ依ルニ下級幹部ハ所謂

兵多ク即チ上カタルモノニシテ其ノ才優劣ナク上級幹部ノ

能力持ニ戰略戰術ノ能力著シク者ハ之ノアリ是レ對シ

戰ニ於テ軍ヲトシ最大ノ着意ヲ行フトアリ 予ハ彼等ノ

戰術眼ニ就テ觀ニ機會ナク或ハ烈ラシト思フスニ下級

幹部ノ素質不良ハ長期ノ戰爭ニ依ル損耗ノ爲ト思フス

(12) 兵ノ素質 (アリ) (日軍軍的ニ觀テ)

(1) 軍風紀絶緩ニ奉天 撫順 進入ノニ觀ルニ 保存 砲臺ノ

如キ何等モ事ト考ヘテ之ノ行ハルニシテ 例ノ

譽ヲシテハ 軍將長カ飛行機ニ始メテ奉天ニ到着ス

飛行場ニ於テ其ノ將校ノ脚邊ニ於テソノ連兵カ日軍軍人ニ

奉敬ノ向ケテ時計ヲ保存セリ 而シテソノ軍ノ在ル所時計

ヲ有ス者ナキ有様ニテ保存セラレタリ

(6) 戰術技術ノ就テハ見テ多ク記述レ得ス

諷刺露ニ於テ觀ス所ニ依リハ收容所關係ソノ軍ノ行フ

演習戰術ノ切實ナリ

飛行練習、於テ技術、優秀ト謂フ(キエナキモ連続  
長時間ノ練習、甚ク身体力的ニ日本人ヨリ優レリト  
(飛行術技ノ言)

(c) 体力一般ニ旺盛、衣食住極ク簡素ニシテ管理容易

特ニ其ノ困苦缺乏ニ堪ル能力ニ至大ナル見多ク

要スルニ兵ノ素質ニ良好ニシテ訓練法ヲ依リ極ク優秀

ニ戦斗共ニタラシメ得ルニト思科ス

2. 兵器項目ヲ

(a) 担擧師団ノ一部隊ニ接シタリニシテ自動小銃(廻轉彈倉式)ノ

裝備精、多クノ見外特ニ感シタル

(b) 米國ノ援メ物資ノ用ヒラレシニ甚ク多ク自動車ヲ姓メ兵器

材ノ固ヨリ砂糖等食料ニ至ル迄之ニ依存シタル見タリ

3. 機動力

徒歩部隊ニ於テモ機動力ニ大ナル見タリ 対日参戦時急速ナル

滿洲進入ヲ在國々々ノ如ク奉天方面ニ向ルニハ蒙古沙漠ヲ連日

連續ノ行軍ヲ實施スルコトヲ 其ノ教令ニ示ス所ヲ遵ルニ大ニ行動

ヲ行ヒアルヲ察セリ

4. 戦法 其ノ他

重要事項ナルモ見立テナク記述レ得ス

二 我方ノ教訓事項

本項ニ関シテハ 編制、裝備、戦法、作戦計畫、指導等各項ニ亙リ

檢討レ尚政、戦術略ニ関スル事項等ニ関シテハ 記述スルニ非ズ

ハ 対シテ 戦ケルヲ實施レアルニ至ラス 在滿僅カ三月ニ滿タタルコト

從來ノ經濟ニ通セズ 正鵠ヲ失ス 堪アルコトヲ之者略ス 尚既述キ文中

ニ 親筆所見ヲ加味シテ 重複ヲ避クニシテ 以下各條ノ件ニテハ 記述セズ

ス 一 軍謀報 謀略 地下潜行的工作ハ 優秀ニシテ 我方ノ遠ク及ハ

サル所トス

ソ聯参戦スヤ豫テ南滿奉吉線沿線之組織シテ地下  
 諜報網カ即時活動ノ開始ニ夜則敵機トノ連絡ヲ實施ス等顯著  
 ナル活動ヲ有セルハ既述ノ如シ 其他 特務機關ニ白軍露人トシテ  
 使用シ兵給仕ガ日本ノ降伏ト共ニ垂軍將校ノ正作ヲ勸シテ  
 同機關ニ手入ノ行ヒレ例 我々ニ利用シテアリト信スル白軍露人  
 等三國人等カ實ニソ軍ノ諜者タル例等枚舉シテトマ無キ所  
 ナリ

抑ソ聯ノ此方面ニ優レ凡ハ其ノ民族性 歴史 現政治 現社會  
 狀況等ヨリ觀テ當然ノ下ニシテ我々<sup>民族</sup>ノ<sup>民族</sup> 浚白、解放的ニシテ而シテ從來  
 概不明朗自由ナリシ社會的環境ニ生活シテアリシニ遠ク及ルハ必<sup>ナリ</sup>ニ  
 之<sup>其</sup>ソ軍ノ實行力ハ旺盛ニシテ計畫性組織性ニ乏シキ<sup>ナリ</sup> 缺<sup>ナリ</sup>ノ<sup>ナリ</sup> 補<sup>ナリ</sup>シテ  
 餘<sup>ナリ</sup>アリ

ソ軍幹部執中、下級幹部ハ知識淺薄ニシテ事ニ當リ計畫  
 組織ノ能力ニ乏シ如セルヲ見、然レトモ迂遠 不合理ニ奇意セズ

ナリト  
思惟ス

強引ニ実行シ強要シ遂ニ功差夫スル見ル 左如事例アリ

(イ) 日本軍が廢品トシテ放棄シ凡自動車ヲ見、之ノ週内内ニ使用レ

得ル如ク修理スルヲ命令シ而シ修理部品ニ手配ヲ不ナシ 我々如何

其ノ廢品ナルヲソ苦クモ承知セズ実行セザル責任者ノ處刑スベシト宣明ス

右ノ如ク初島ノ鬼塚、修理等ニ必死ノ如ク力ヲ用テテ遂ニ完成セリ

(ロ) 日本軍俘虜ヲ以テテ作業方任ヲ編成スルニ方リ、軍醫一

通譯一等ニ含メテ命令シ是等該書者ノ有無等事前

調査スルヲナク何等可意スル所ナク唯其書行テ命令ヲ脅迫シ

而シ被命令者ノ非常ニ努力、創意ニ依リ所期ノ如ク実行

セラルノ事トス

右ノ卑迫ノ例ニ過サルニ日本軍ノ事ニ當リ是非便宜、利害ノ

激論ニ由レテ実行シ之件ニ於テ多ク対照シ一教訓スルヲ失ハズ

某莫倫之ヲ評シテ「ソ軍ハ不合理ノ強行ニ依テ捷ク日本軍

ハ合理ノ進取ニ依テ敗レタト 眞ニ同感アリ



3) 日本軍は百歩隊、大砲、ミサイル、能く実功を挙げたアリ

左、如キ例アリ

(1) 撫順、日本軍の新屯ニ集結スル一方、之カ警戒ニ當リ、其ノ軍

大尉ハ途中自己兵力ノ不足ニ不安ヲ感シ、先ニ其ノ所ニ休憩中

ノ他隊ノ兵十名許リ、カキ集メ、新屯ニ到リ、午後長期間ニ亘リ

其ノ兵ヲ以テ敵ヲ備ヘ、當リアリタリ 編成ノ所屬等何等ノ意

スル所ナキカ如シ

(2) 兵ノ死亡ニ就テハ何等ノ事故カ行ハレタリ、如ク我ノ短氣也

事故カ、更ニ功績調査事故カ等ノ何セ考ラズ、一没頭シテ戦力

ノ阻害レアリト對比セ、互大ニ懸隔アリ

尚前ニ例ニ依リ、兵員ノ物品視テ、唯物親ニ做レ、アリト見ル

(3) 悪路ニ至リ、生々、自動貨車ノ運轉兵、自己ノ車ノ倒板

ノ破壊レテ、地上ニ敷置シ、踏板ニ使用シ、甚佳、後棄セル見ル

(4) 陸軍將校ニシテ、海軍服ヲ着用シ、或ハ持有セル日本軍被服ヲ

五五

常用先鋒者多し 制式、部内ノ威容等ノ注意マカルモノ也

(戦事末期、日軍軍モ逐次新クナレモ未ダソノ軍及ラス)

(+) 部内ノ宿營、給養等ノ就テハ極ク簡易粗悪ニ満足ス

以上數例ニ過ギザルソノ軍ニ事ノ高ク 制式、理非曲直、便宜等

ニ介意スルコトヲ 簡單ニ、臨機應變的ニ之ニ處理シ、克ク

実功ヲ收メアリ 日軍軍ニ於テモ、日軍軍簡單ヲ旨トシ、且輕重本末又

明ニシテ、教ヘラレテ上下ト通レソノ軍ニ及ラザルヲ遠キシアリ

4-1-1 軍ノ思想統一ハ、克ク行ヒ、伊志ハ嚴守セラル

統戰直後「日本軍人ハ、三、四月以内ニ内地ニ送還セラルト欺騙シ

以テ無事トシ領ヘ、輸送セラルト全國ニ上、大將ヨリ下一兵ニ至ル迄

克ク徹底シテ、テラ、眞實ノ片鱗ヲ見セズ、極ク稀ナリキ

又 対米戦軍ノ宣傳ニ上下ト通レ、ヨク徹底シテ、見

斯ク指導者ノ全國ニ克ク徹底シ、且伊志ノ保持ハ、理想的、

行ヒ、軍隊ノ所謂政治教育ノ徹底ヲ思ハシム

三其他参考事項

ノ一ノ聯ハ國民ニ對シ 對米戦争遂行ノ意識昂揚ニ

狂奔シタリ

ソ聯ノ對日参戦時奉天方面ニ侵入セシソ軍ノ兵ハ孰レモ

吾々ハ米軍ト戦フ事ニ為ニ来レリト稱シタリ 彼等ノ連合國

ニシテ即モ手ニ援テソ物質ノ持テテ、此ノ言ヲ為シ、ソ軍ニ對シ

最初ハ頗ル奇異ノ感ヲ催サレシ程ナリ

又奉天附近ニテ停戦直後集結中、我ニ一部隊ヲ送上ニ提ヘテ

兵器糧秣ヲ剽奪シ直ニ之ヲ附近ノ滿洲住民ニ送ヘテ曰ク

吾々ハ直ニ米軍ト戦フニシテ、宜シク我ニ與ラセヨト

更ニ後日ノ経験ナキ 歐露ノ於テソ聯ノ官吏ハ一青年市民

ノ怠慢ヲ叱責シテ、ソシナトテ、アメリカニ買ケルゾト強ク

戒メアリシヲ目撃ス

右ノ如ク拉東ト砂露外内ニ於テ戦直後ト午後ノ約ナリ上下ノ通シ

五七

対米戦争を意識大々高揚せられたる見ゆ

最初ハ滿洲侵入軍ニ対シ志氣振作ノ手段カト判断セシメ後ニ

至リソノ聯府政者ノ企圖更ニ深遠トモノアルヲ察ス

之ニ終戦後ソノ聯が滿洲ヨリ奪取搬送セシ物資ノ莫大ナル

ヲ想像ノ外ニアリ

終戦直後ヨリソノ軍ハ我軍用品ハ勿論官有私有ノ間ハズ

又日常生活ノ必需品トモトテ論テ軍需品ハ言フニ及ハズ

家具ノ家具果天田園ノ穀物迄ハ我俘虜ヲシテ收穫セラル等

有テ物資ソノ領ニ搬送レ連日連夜ニシテ継續アリ

吾ニカ奉天占領以後、プラエリチエンスニ在リテハ、ソノ以上ノ要トモ

此等物資ノ搬送カ主ナル輸送隊者ト致シタルニ、如ク又歐路

ノ収奪所ト於テモ日本其ノ他各國俘虜ノ被服、履具等日本

品甚タ多ク食糧亦長期ニ亙リ滿洲ヨリ搬入セラル使用セリ

又現在拉東ソノ領ノ鐵道車輛ニ多數ノ滿鉄車ヲ使用

レツ、アソ見ルモ如何ニ莫大ナル物資ヲ概出セカク知得ハ

3. ソソ聯ハ今度戦争ニ於テ其ノ有ラシ限リノ力ヲ盡シ

氣息奄々トシテゴルニ倒レ込ミ感ヲ催レタリ

満洲ニ於テ終戦時見スニ軍隊ノ素質程度ガ從來研亮レアリ

名ソノ軍ト似モツカ又他方其ナリレド、国内物資ノ不足其種

違レ洋國ノ援ソ物資ニ依リ辛ク支ヘアリレド、国内民間

満足ヲ得カチ、悉ク後ヲ断テ銃後ハ重労働ト至ル迄婦人

手ヲ踏シレアンテ等々見テソソ聯ハ真ニ出ワヘキ力ヲ悉ク

出シ盡シアリレシト思ヒレド我ノ苦戦ニ在ルトキ敵軍以上ノ苦境

ニ在ルト思フ(ナ原則ノ真ナルヲ如実に見テ)

註 在ソソ三年ノ後ニ見ルソソ聯ノ復興ハ著大ナルアリ

4. ソソ軍ノ信義、國際公法ニ對スル觀念ハ比自無ナリ

吾々終戦ト同時ニ收奪セラレテ以來公私別テ強テ虚言虚構

ヲシテ過ロウヤリト謂フニ過言ニアラス 軍ニ對スルハ万々承知ノ

トナルニ指揮官が必要ニテト虚言ト再々ニ云々奇異ニ感シテ

「政治的」収容所ノ下レ後ニ起テ、労働<sup>結核</sup>等<sup>結核</sup>吾々存続ノ取扱<sup>ニ因</sup>

國際法ニ準據セザルニ勿論、ソノ聯者尙自ラノ任リレ

存続内務ノ規定迄ニ有ル無<sup>山</sup>来ノ状態ナリキ

但シ右ハ収容所々事者ノ非違ニ依<sup>レ</sup>テ見<sup>ル</sup>ニ異<sup>ナ</sup>リキ

ソノソノ聯人ノ人種的差別感ハ殆<sup>ド</sup>ト之<sup>ノ</sup>見<sup>ニ</sup>依<sup>リ</sup>テ親<sup>ク</sup>ア<sup>ラ</sup>タ

モノアリ

右<sup>ノ</sup>ソノ聯ノ建國、文化ノ程度ニ依<sup>リ</sup>テ大<sup>キ</sup>ニ主<sup>ト</sup>シテ其ノ國民性

ニ依<sup>リ</sup>テソノ聯最大ノ長所<sup>ニ</sup>テ<sup>モ</sup>克<sup>ク</sup>他ノ短所<sup>ヲ</sup>補<sup>ヒ</sup>且

將來<sup>ノ</sup>ソノ聯ノ偉大<sup>ヲ</sup>致<sup>ス</sup>有力<sup>ナル</sup>其<sup>ノ</sup>盤<sup>石</sup>ト<sup>シ</sup>テ感<sup>ス</sup>

終<sup>ト</sup>